

分身でチバニアン地層体験

市原市

市原市は千葉商科大学（市川市）、NTT東日本と連携し、子育て世帯や高齢者など行動する時間・場所に制約がある市民の多様な希望に応えるため、デジタル技術「メタバース」（仮想空間）を活用する検証を始めた。最初の取り

組みとして、市内の貴重な「チバニアン」の地層を題材にしたメタバース空間をインターネット上に用意した。現地に行くのが難しい人にも魅力を発信できるよう、現地を3次元で再現。自分の分身を動かして観察できる。



チバニアンを題材にしたメタバース空間（市原市提供）

チバニアン地層のメタバース空間は、NTTグループのNTTコノキューが提供する仮想空間プラットフォーム「DOOR」を使用。NTT東日本が技術的な支援などを行い、千葉商大人間社会学部の鎌田光宣教授と学生たちが作った。

ネット接続すれば手軽に「訪問」でき、スマートフォンからでも見られるのが特徴。分身となるアバターを動かす、空間上のビジュアライゼーション（案内所）や、77万年前の地磁気逆転地層の崖などを訪れたり、当時の貝の化石を見たりすることができる。空間上のビジュアライゼーション内でチバニアン地層の解説動画を見て説明を受けることも可能。

千葉商大構築
NTT東支

メタバース空間活用

マイクで会話する機能も持たせていて、将来的には同市田淵にある本物のビジュアライゼーションのボランティアガイドとのリアルタイム連携も視野に入れる。

小出譲治市長は「事前にメタバース上で学習し、現地に来てほしい」と期待した。鎌田教授は「今回はチバニアンのみだが、今後は市原ぞうの国など市原市全体の魅力をPRするコンテンツに広げていきたい」と展望した。メタバース空間へのアクセスが可能。

市はこの空間を活用し、市民のメタバースへの関心度や利用実態、課題を把握していく。検証を踏まえ、行政の窓口サービス充実への活用方法も検討する。